http://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-ch/index.html　令和2年　7月発行

中北.com チュウホク ドット コム

地域教育情報紙

中北教育事務所
地域教育支援スタッフ
〒407－0024
韮崎市本町4－2－4
TEL 0551-23-3046
FAX 0551-23-3013

2

中北の地域社会（com munity）の心の交流（com munication）をめざします

令和２年度　地域教育推進連絡協議会　スタート!

６月１８日（木）に予定されていた第１回中北地区地域教育推進連絡協議会は，新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とし，書面協議とさせていただきました。今年度の事業計画は，協議会員の皆様に了承していただました。ありがとうございました。本年度役員の皆さまは以下の通りです。

会長　　小林　仁　　氏（甲府市教育委員会　教育長）
副会長　増山　希世彦　氏（南アルプス市教育委員会　教育長）
副会長　芦澤　秀幸　氏（中巨摩公立小中学校校長会会長　南アルプス市立白根巨摩中学校　校長）
副会長　黄　　運騰　氏（北巨摩第一支会PTA代表）

中北地区地域教育推進連絡協議会が目指すもの

中北地区地域教育推進連絡協議会は，急速に進む少子高齢化や地域の人間関係の希薄化といった社会の変化を背景に，社会教育を基盤として，自主的・自発的に学ぶ人づくり，住民の相互学習を通じたつながりづくり，地域に対する愛着や帰属意識の喚起といった地域づくりを行うために，中北地域全体の教育機能の向上，学校・家庭・地域社会の連携の促進，家庭教育への支援，学校の教育活動への地域の活力の導入・活用等に取り組み，地域教育の推進や市町村教育委員会への支援を図ることを目的としています。

情報提供　フードアプリケーションプラス　食品や生活関連用品寄付へのご協力のお願い

中北地区地域教育推進連絡協議会委員を務めていただいております**甲府市社会福祉協議会ボランティア振興課　中澤義明課長**から以下の情報の提供がありました。ご協力のほど，よろしくお願いいたします。

フードアプリケーションプラス～家庭や企業で余った食品・生活関連用品を寄付していただき，行政やNPO法人などを通じて必要な方々にお届けします～

受付期間　　**令和2年7月20日（月）~8月21日（金）**　８：３０～１７：１５（土，日，祝日を除く）
受付・問い合わせ場所　　甲府市社会福祉協議会ボランティア振興課（甲府市ボランティアセンター）
甲府市相生２－１７－１（甲府市役所南庁舎1号館2階）　tel：055－223－1061
ご寄付いただきたい食品：**缶詰，インスタントラーメン，パスタ・うどんなどの乾麺，レトルト食品，海苔などの乾物，飲料，調味料，お菓子，お米　など**
（食品について①賞味期限が明記され，3ヶ月以上期限があり，未開封で，破損など中身がでていないもの　②お米は令和元年以降のもの　をお願いします。）
ご寄付いただきたい生活関連用品：**洗剤，漂白剤，除菌シート，シャンプー，石けん，マスク，生理用品，トイレットペーパー，ティッシュペーパー，タオル類など**

中北.com　no.２　コンテンツ

p1　中北地区地域教育推進連絡協議会，甲府市社会福祉協議会　　p２　落合小学校，玉穂南小学校
p３　中央市教育委員会　　p4　SDGsネットワークやまなし，風土記の丘研修センター

入学，おめでとう！

南アルプス市立落合小学校

写真提供　南アルプス市立落合小学校

新型コロナウイルス感染拡大防止のため延期されていた入学式が，中北地区では甲府市，南アルプス市，甲斐市，中央市，昭和町，韮崎市の小中学校で，５月２４日（日）に行われました。

南アルプス市の落合小学校では，２０名のかわいい新入生が，入学しました。「小学校では国語や算数などいろいろな勉強をします。また，たくさんの行事やおいしい給食もあります。楽しみにしてください。」と，深澤隆二校長先生から歓迎の言葉をいただいた新入生は，これからの楽しい学校生活に目を輝かせていました。約２ヶ月遅れの入学式となりましたが，新入生にとっても保護者にとっても，思い出深い１日となったことでしょう。落合小学校では，入学式での様々な感染対策を行っていました。新入生同士の距離を空ける，窓を開けて換気をする以外にも保護者の参加は１名とする，原則的に保護者も新入生もマスクを着用する，受付時に健康チェックを行う，等です。また，入学式の内容を，担任発表，新入生の呼名，南アルプス市教育長のメッセージ代読，校長先生の話と内容を絞り，入学式自体の時間を２０分間と短くしました。入学式を行うことができ，先生方にとって感慨もひとしおだったと思います。複数回の予定変更のたびに様々な準備のし直し，さらに例年と違う会場の準備，受付から下校までの密を避けるための様々な感染対策等々，どの学校でも大変だったと思います。その分もあって，すべての学校の先生方にとって，入学式での新入生の姿はたまらなくうれしかったことでしょう。

自分とのつながりを学ぶ

中央市立玉穂南小学校

田んぼに児童の元気な声が響きました。ここは中央市玉穂地区にある田中さんの田です。６月１１日（木）に，中央市立玉穂南小学校（進藤美佳校長）の５年生児童が，「総合的な学習の時間」の学習として，田植えをしました。玉穂南小学校では，山梨県の「いきいき教育地域人材活用推進事業」を活用し，地域に住んでいる田中さんに稲作りの指導をお願いしています。田中さんは，現代の農業は近代化が進み，作業時間が短縮されていることを話してくださるとともに，実際に田植機を動かして見せてくださいました。田植機が通り過ぎた後の田を見た児童は「すごいなあ。」「さっきまで何もなかったのに。」などと感動したり，田植機の動きを動作を交えて友達と再現したりしていました。「もらった苗を少しずつ分けて，人差し指と中指，そして親指を添えて３本の指で持つ。」，「そのまま土の中にしっかり植えるんだ。」，「植えたら後ろへ進むんだよ。」など，児童は田中さんから苗の植え方を教えていただきました。そのほかにも，田中さんからは，「この地域には昔はもっとトウモロコシの畑がたくさんあったんだよ。今では，大学病院やスーパーがあるけど，田畑がたくさんあった玉穂地区の昔が残る姿も大切にしてほしい。」と地域を大切にする気持ちも聞かせていただきました。さらに強調されていたのは，「つくった人の気持ちになって食べる。」ということでした。田中さんの話を聞く児童の真剣な顔が印象的でした。つくっている人から直接思いを聞くことの大切さを感じました。田中さんから苗をいただいた子どもたちは，いよいよ田の中へ。入った瞬間「うわぁ。」「（足が）抜けない。」などと歓声を上げていました。ところが，苗を植えるときには，息を止めるように，慎重に，心を込めて植えていました。植え終わった児童からは，「楽しかった。」，「またやりたい。」などの感想が聞かれました。最後に，田中さんは「機械で植えたところと手で植えたところでは，どっちの方がきれい。」と田植えが終わった田を見せながら児童に問いました。児童からは，「機械で植えた方がきれい。」，「教えてもらったとおりにできなかった。」などの答えとともに，「でも，手で植えた方が愛がこもっている。」という答えも出されました。「これから稲の様子を気にしていてください。いろいろと気になることが見つかると思いますよ。」と，児童は田中さんから宿題をもらっていました。秋には，収穫をして，できたお米をつかって収穫祭をするなどの計画があるそうです。児童は，この田植えの経験を通して，自分と自然・地域・人とのつながりを学んでいました。今後の学習が楽しみです。担任の大辻先生，高橋先生，ありがとうございました。梅雨入りしたあいにくの天候でしたが，田中さんの熱意と児童の一生懸命さで，小雨程度に我慢してくれていました。

自宅でチャレンジ！親子でチャレンジ！

『おうち講座』

中央市教育委員会

中央市教育委員会では，ホームページ上で『おうち講座』を開催しています。通常であれば子ども料理教室など市民のために様々な企画を行っているところですが，コロナ渦の中，人を集めたイベントが全くできないのが現状です。中央市教育委員会職員の皆さんは，「そんな中でも何かできないか。」，「今一番困っているのは子どもたちではないか。」，「子ども向けで，しかも親子でできるものはないか。」と『おうち講座』を考え出したそうです。

『おうち講座』第１回は，「アマビエをつくろう」です。「アマビエ」とは，「疫病が流行るから私の絵を描いて広めなさい。」と言ったと伝えられている妖怪だそうです。「描き写すのもいいけれど，つくってみたらどうだろう？」ということで，昨年開催しただるまづくり教室の経験を活かして中央市教育委員会の職員の方が考案した「アマビエづくり」講座です。ホームページには，材料とつくり方が，とてもわかりやすくていねいに説明されています。

中央市教育委員会の窓口では，職員手づくりの『アマビエ』が来庁者を出迎えています。教育委員会に立ち寄った方の中には，『おうち講座』に興味をもち，材料やつくり方をまとめたプリントを持って行ってくれる方もいらっしゃるそうで，そのことが職員の方はとてもうれしいとのことです。

『おうち講座』第２回は，「自宅でつくろう　消しゴムはんこ」です。「好きな形をはんこにできる『消しゴムはんこづくり』は，いろいろな素材やインク，押し方を組み合わせる面白さがあります。」と紹介されています。「消しゴムはんこづくり」も，ホームページで必要な道具と押し方について紹介してくれています。職員の方は，「マスクに押すと，オリジナルマスクになって，楽しいですよ。」と教えてくれました。ほんと，楽しそうですね。

『おうち講座』には，中央市教育委員会職員の皆さんの「このようなときなので，一人一人が時間の使い方を工夫しながら協力してコロナとうまく付き合っていってほしい」という思いが詰まっています。『おうち講座』は，第３回目以降も予定があるそうです。中央市教育委員会のホームページに注目です。

アマビエをつくろう

『新聞文庫・絵』（京都大学附属図書館所蔵）

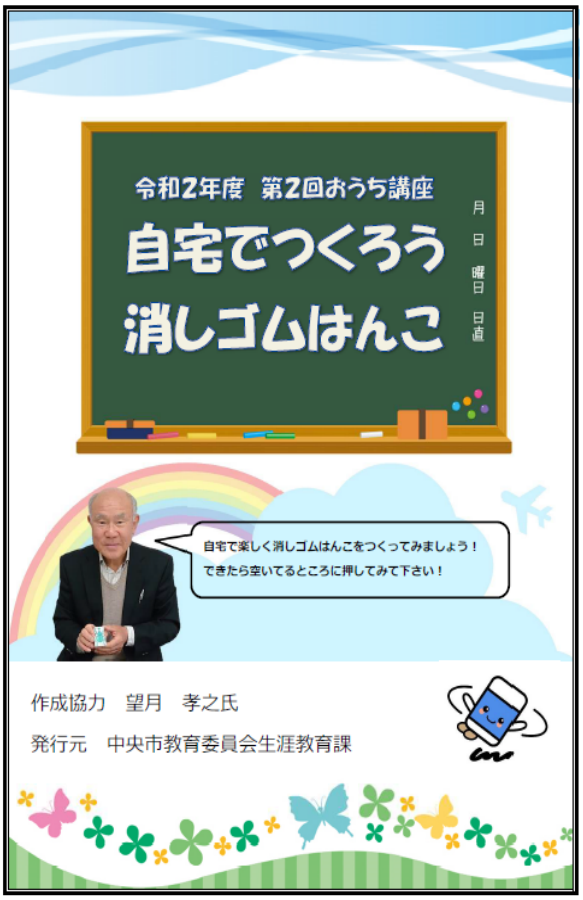
人魚のような妖怪、アマビエ。江戸時代に現れ、「疫病が流行るから私の絵を描いて広めなさい。」といったとか・・・。描いた絵はお守りのように使われたようです。その姿は京都大学貴重資料デジタルアーカイブで見ることができ、新型コロナウィルスの感染拡大が続く中、多くの人が描き、インターネット上で公開されています。

描き写すのもいいけれど、作ってみたらどうだろう？

昨年開催しただるまづくり教室の経験を活かして作ってみました。たいへんだけど面白い。外出が難しい今、自宅でチャレンジ、親子でチャレンジ、してみませんか？

京都大学貴重資料デジタルアーカイブ

https://rmda.kulib.kyoto-u.ac.jp/item/rb00000122



子どもたちの幸せを願いながら，アマビエをつくってみました！

おうち講座／山梨県中央市公式ホームページ

https://www.city.chuo.yamanashi.jp/soshiki/shougai_kyouiku/

中高生がオンラインディスカッション　SDGsネットワークやまなし

SDGsネットワークやまなし　内田智之代表理事

新型コロナウイルスの感染拡大を防止するため，人と身体的距離をとり接触を減らすことや手洗いやマスクの着用など，行動の変容や基本的感染対策の実践が求められています。また修学旅行などの学校行事の延期，全国的なスポーツイベントの中止など，子どもたちはこれまでとは違う日常の中で生活しています。そんな中，中学生や高校生が今感じていることや考えていることを共有することができるようにと，特定非営利活動法人SDGsネットワークやまなし代表理事の内田智之さんによってオンラインディスカッションの場が提供されました。SDGsネットワークやまなしでは，SDGｓ（2015年国連サミットで採択された，「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のため，2030年を年限とする17の国際目標）の達成に取り組む各種ボランティア団体やNPO法人の連携を図り，SDGｓへの理解と啓発を推進する活動を行っています。その代表理事である内田智之さんをコーディネーターに，6名が参加した今回のオンラインディスカッション。学習や部活動，学校行事といった身近なものから，９月入学制や将来の就職活動といったさまざまなテーマで意見が交わされました。参加した生徒達からは，「学校の臨時休業中に自分で予定を立てて学習を組み立てるという経験を通じ，家だからこそできる勉強のやり方もあれば，学校でなければできないことがあることに気づいた」「今は大変な時期だけれど，今しかできないことや今までできなかったことを始めてみるのもいいという気持ちになった」といった意見が出るなど，社会や周りが大きく変化する中でも，主体的に目の前の問題に取り組み，「今，自分にできることを精一杯やっていこう」と前向きに考える様子がうかがえました。

縄文時代を身近に　風土記の丘研修センター

現在，グローバル化の進展や技術革新等により大きく社会が変化する中，小・中・高等学校を通じて「社会的な見方・考え方」を働かせ，地理や歴史に関わる事象の意味や意義，特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり，社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力を育成することが求められています。また年表や地図などの資料の活用，地域の文化遺産や博物館などの調査・見学は，子どもたちの学びをより豊かにすると言われています。山梨県立考古博物館　風土記の丘研修センターでは，実際に土器，石皿などの実物や土偶の複製品などに触れる機会を提供するとともに，親子ものづくり教室など体験を通じて歴史学習への意欲を高め，理解の一層の定着を図る取り組みを年間を通じて行っています。6月14日（日）には同センターで縄文土偶をモチーフにした陶製箸置きづくり教室が行われ，11名の親子が参加しました。参加者は土偶のレプリカを目の前で実際に観察することで，紙の資料からは得られなかった土偶の持つ温かみや当時の人々が持っていた造形力の高さを実感。また縄文時代の暮らしや土偶についての説明を受けることで，当時の人々が土偶に込めた願いなど，古代の生活に思いをはせながら箸置きづくりに取り組みました。東日本最大級の前方後円墳である甲斐銚子古墳や県内最大の円墳である丸山塚古墳など貴重な史跡を有する甲斐風土記の丘・曽根丘陵公園。教室とは違ったこの場所で，古代の生活や文化に「触れて」「感じて」「考えた」1日となりました。

令和２年度　『中北.com』№.２
編集･発行　中北教育事務所 地域教育支援
担当：横森一哲・雨宮　靖子